

(資料)

## REFRANERO ESPAÑOL (38) スペインの諺辞典

Bernardo Villasanz\* (ed.)

新 井 藍 子\*\*

### 1394. **Quien canta, sus males espanta.**

歌をうたって 災いを追っばらう

- 逆境を忍耐心で乗り越えることを勧めている、いわゆる “A mal tiempo, buena cara. 悪天候には、明るい顔で” の気持ちが大切である。(スバルビィ) 注：  
“(Poner) a mal tiempo buena cara. 一逆境にもくじけない” 意の諺一筆者  
故に、“Cuando el español canta, o rabia o no tiene blanca. スペイン人が歌って  
いる時は、怒っているか、一文なしかのどちらかだ”(人前では、明るくふるまって  
悲しみや恨みなどの感情を隠している人を指す一筆者の諺辞典、諺 335 を参照) の  
諺がスペイン人の中では、とてもよく知られている。
- 例題：ドン・キホーテ第一部 22 章では、街道でドン・キホーテが漕刑囚と出くわして、  
“cantar” をそれぞれが異なった意味に解釈して交わす問答が面白い。看守の警  
護の下に数珠つなぎで引かれていく漕刑囚の一人がドン・キホーテに、“...; que no  
hay peor cosa que cantar en el ansia. もがいて歌うよりわるいことはねえからね。”  
それに対して、ドン・キホーテは標題の諺を引用してこう答える、“—Antes he yo  
oído decir.... que quien canta, sus males espanta. 歌をうたえば、わるいことをおっ

\* Edición y revisión. Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

\*\* Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

ばらうと聞いたが” こちとらにゃ、あべこべでね、漕刑囚。“...; que quien canta una vez, llora toda la vida. 歌うたったが最後、一生泣くんでさ。”(正編二、22章、永田寛定訳)注：“cantar en el ansia—もがいて歌う”とは、“拷問に音を上げてあらいざらい罪を白状したという意味である。また、“Quien canta una vez, llora toda la vida. —歌うたったが最後、一生泣くんでさ”とは、“刑罰としての漕刑六年、むち二百のほか、仲間たちから白状したいくじなしとみなされて、いじめられ、罵られ、相手にされず無視されるのが一生続くという意味—筆者。

- スペイン人は心中の苦しみ、悲しみを歌をうたって隠すが、日本人は“顔で笑って心で泣く”という諺が謳っているように、内心の悲しみを人に知られないように隠して他人には、笑顔で接する。また、日本の諺“泣き面に蜂”，“弱り目に祟り目”，“こけた上に踏まれる”，などが指摘しているように、何か一つ不運なことが起こると、次々と不運が重なることがよくあるのは誰もが一度は経験しているだろう。だから、ある不運に見舞われたなら、次ぎの新たな不運を避けるために一番いい処方箋は“笑いは人の薬”という諺である。笑いが不運、悲しみの最良の薬となる。この場合の“笑い”は、歌大好きなスペイン人の“歌”と、同義である。

### 1395. Quien come y condessa, dos veces pone mesa.

食べて とっておけば 二度の食卓の用意

- お金は使うが、貯蓄もすれば、必要な時に困らないですむというたとえ。(パロス)
- コバルビアスの“宝典”には、“Quien come y condessa, dos veces pone mesa. 食べて、とっておけば、二度食卓の用意ができる”が収載されている。コバルビアスによると、“condexar o condessar”は、古いカスティーリャ語で、“reservar—取っておく、しまっておく, etc. guardar—保管する、しまう, etc. depositar—預ける、置く、入れる, etc.”などを意味する。また、この諺は、“食事はすませてから、更にその夜、或は他の日のためにも取っておけば、断食せずすむ。常にわれわれは明日という日を考えねばならないというたとえ”
- 現在にどっぷりつかっているその日暮らしではなく、将来の生活に困らないような金の使い方をするのが賢い。それには、“足るを知る者は富む”という心境が大切である。欲のかぎり大食らいするのではなく、節度ある分相應のところまで満足すれば、いざという時にも困らないし、反対に経済的にも、気持ちの上でも豊かになれるのである

うということ。

**1396. Quien con lobos anda a aullar se enseña.**

狼と一緒にいれば 吠えることを 教えられる

- 一緒に住んでいる者の癖は容易く覚えてしまうということ。(パロス) 善良な者を墮落させてしまう悪い仲間の影響力の強さを言う。(スバルビィ諺辞典)
- 筆者の諺辞典、諺 290 には一連の同義のことわざが次ぎのように収載されている；  
 “Con quien paces, que no con quien naces. 氏より育ち”，“Dime con quién andas, diréte lo que hablas, o tus mañas. 誰と一緒に歩いているか言ってくれ，お前がどんな話をし，どんな癖があるかを言っあげよう”，“Dime con quién fueres. diréte quién eres. 誰と一緒にいたかを言ってくれ，お前がどんなやつかを言っあげよう”，“Dime con quién irás, decirte he lo que harás. 誰と一緒にいるつもりか言ってくれ，お前が何をするかを言っやろう”，“Dime con quién paces, y decirte he qué haces. 誰と一緒に食べているかを言っくれ，お前が何をしているかを言っやろう”，“Dime com quién tratas, y diréte quién eres y qué costumbres tienes. 誰とつきあっているかを言っくれ，お前が誰で，どんな習慣があるかを言っやろう”など。また，同諺辞典，諺 1067 の “No con quien naces, sino con quien paces. 一緒に生まれた者でなく，一緒に草を食った者こそ” もあわせて参照して下さい。これらいずれもが，常に一緒にいる者が相手に及ぼす影響力の強さを謳っている。
- これら一連のスペインの諺は，“生まれつきより育ちが第一”，“氏より育て”，“氏より育ち”，“その子を知らざればその友をみよ”，“水は方円の器に従い，人は善悪の友による”などのこちらの諺の真意を裏付けてくれるのである。人というものは，交友，教育，環境の影響を受けやすく，良くも悪くもなるのである。また，実際に起きた狼少年のニュースは，まさに標題のことわざどおりで，狼の中で育てば，話すかわりに，遠吠えすることを覚え，四つん這いで走りまわり，いつも裸であることを好むようになる。

**1397. Quien da pan a perro ajeno, pierde pan y pierde perro.**

パンをよその犬にあげれば パンも犬もなくす

- 恩知らずな者を援助したり、必要以上に関心をよせる者を咎めている。(バロス) 打算的な目的で知らない人たちに慈善行為をすると、一般に、して上げたことは無駄になる。(スバルビィ)
- 類義の諺には “No críes hijo ajeno, que no sabes si te saldrá bueno. よその子は育てるな、良い子になるとはかぎらないのだから”, “Es lavar la cabeza al asno perder la lejía y el trabajo. ロバの頭を洗うのは、洗剤の無駄遣いと、くたびれもうけ” (感謝することを知らない人に対して、世話をやいたり、骨を折ったりする事は無駄であるということ。筆者の諺辞典、諺 586 を参照) などがある。
- 標題の諺は世話をやいたり、面倒を見て上げたことが無駄に終わることをたとえている。そうすると“骨折り損のくたびれ儲け”となる。同義の諺には“猫は三年飼っても三日で恩を忘れる”がある。それより酷いと、“後足で砂をかけられる”, “飼い犬に手を噛まれる” ようにまでなるから用心にこしたことはない。

**1398. Quien da parte de sus cohechos, de sus tuertos hace derechos.**

買収金の一部を上げる者は 不正な者を 正しくする

- 買収されて受け取った金のいくらかを、下っ端に上げると、一生その下っ端に恩義を感じていなければならない。(バロス) 汚い仕事の一端をかついだ者には、罪を犯したという罪悪感はほとんどない。(スバルビィ)
- コバルビアスの“宝典”には、“cohecho—買収, 汚職”という言葉がでてくる他の格言が見られる, “Ni tomes cohecho, ni pierdas derecho. 買収されるな, 正義をなくすな” 標題の諺は, 汚職で金を受け取った中からいくばくかの金を下っ端に使った者に上げた場合, その下っ端は巨悪の中では, ほんの小さな役割しか受け持たなかったもので, 罪の意識などはほとんどないと言っている。組織ぐるみの汚職事件を想定してもらえば, よく分かる諺である。組織の末端にいる者たちがそれぞれの役割に応じてそれ相応の金を受け取っても, その金が汚いとは思ってもいないということ。

**1399. Quien destaja no baraja.**

契約する者は 争わぬ

- 事業を始める前には、後で起こるかもしれない争いごとや誤解などを避けるためにいろいろな問題点、条件などについて話し合わなければならぬ。(バロス) 後のいさかいや訴訟などを避けるために、起業の初めにあらゆる厄介ごとを防ぐ必要がある。(スバルビィ)
- 例題1：ドン・キホーテ第二部7章、三回目の出発にあたり、サンチョはドン・キホーテにことわざと常套句を連発しながら月いくらときまった給金を払ってもらうことをかけ合う，“Teresa dice ... que ate bien mi dedo con vuestra merced, y que hablen cartas y callen barbas, porque quien destaja no baraja, ...テレーサはね...旦那様との約束をしっかり決めなせえ、証文にして、口約束はよすがい々、なぜってえと、かるたの混ぜ手は切り手でねえ、...”(続編一、永田寛定訳) 注：標題の諺にはバロスによると，“No se puede repicar y andar en la procesión. 行列で鐘の鳴らし役と参列役をひとりでこなすのは無理（一度にいろいろな事はできない）”という意味がある。上記の永田氏の訳はこちらのほうである。しかし、サンチョが言いたかったのは“前もって話し合って決めておけば、後で面倒なことにはならないであろう”という、標題の訳のほうであろう一筆者。
- 例題2：ドン・キホーテ第二部、43章、サンチョが島の統治に行くことが決まって、ドン・キホーテがこまごまとした注意をサンチョに与える、そのひとつがサンチョの癖であることわざをでたらめに入れるなというものであったが、サンチョは諺を連発しながらそれに反駁する，“...Mas yo tendré cuenta de aquí adelante de decir los que convengan a la gravedad de mi cargo; que en casa llena, presto se guisa la cena; y quien destaja, no baraja; ...けれど、わしゃこれからは、職務の重さにつりあうだけ言うように気をつけるだ。だってね、＜なんでもある家なら、めしの支度がすぐできる＞だし、＜カルタのくばり手はかきまぜ屋ねえ＞だし、...”(続編二、永田寛定訳) 注：ここでは、サンチョは二番目の意味で標題のことわざを使った。つまり、人というものは、それぞれ役目があるということ一筆者。

**1400. Quien dinero tiene, come barato y sabio parece.**

金を持っていても 安く食べると 賢く見える

- 一度にたくさんの量を買えるせいか、或は、便宜をはかってもらえるせいか、とてもよい条件で（食材を）購入できるから。（パロス）
- スバルビィ諺辞典には、異表現の“Quien dinero tiene, sabio parece. 金を持っている者は、賢く見える”（金を持っている人の欠点は見えにくい—スバルビィ）が、収載されている。

**1401. Quien en la plaza a labrar se mete, muchos adiestradores tiene.**

広場で仕事をすると たくさんの熟練工がでてくる

- 皆が見ている場所で仕事をしていると、いろいろ違った意見を聞くはめになる。（パロス）
- ことわざの“labrar”は、“（木材、石、金属などに）彫る、加工する、細工する”という意味。職人が細工をしているところを見物人が、いかにもその仕事に精通しているかのようにあれこれ口を出すことで、スペイン人の性格をよく言い当てている諺である。また、同義の諺には“Quien hace casa en la plaza, o ella es muy alta o muy baja. 広場で家を建てていると、家はとても高くなるか、とても低くなるかのどちらかだ”（何故なら、家を建てているところを見物している者たちがあれこれと口を挟むのでそうになってしまう—パロス、めいめいが自分の思っていることを口に出すからこうなる。他人が言うことや、判断がどれほど多種多様であるかを教えてくれる—コレアス諺集）がある。どんなことであれ、いちいち人の意見に耳を傾けているところになってしまう。とはいうのも、“Los dedos de la mano no son iguales. 手の五本指、みんな同じではない”（筆者の諺辞典、諺 387 を参照、世の中には、いろいろな考えや、価値観を持ったものがあるということ）、“De gustos no hay nada escrito. 十人十色”（同諺辞典、諺 388 を参照）であるから。

**1402. Quien en tiempo huye en tiempo acude.**

いい時に逃げる者は いい時にやって来る

- 適切な時にこらえたり、或は、危険から退却する者は、また、ちょうどよい時に戻ってくる十分な用心深さを持っている。(バロス)
- 何事をするにも、時をわきまえよとおしえている諺である。例えば、鳴かぬなら、“鳴くまで待とう時鳥”という句は、忍耐力の強い徳川家康の性格を端的に表わしているとして度々引用される。“逃げるが勝ち”という格言もあるが、標題のことわざが言うように、その時の勢勢が悪く、負けると分かっていたら、一旦退却して、時宜にかなって戻ってくれば、勝利を手にもすることもできるであろう。旧約聖書の“語るにも黙るにも時をわきまえよ”の箇所(シラ書 20)で、適切な時をわきまえる大切さが述べられている。こちらにも同じような主旨が諺を通して語られている；“物には時節”(何事をするにしても、それに適した時機というものがあり、それを外しては成功しないということ—故事ことわざ活用辞典)、“事は時節”、“物に時あり”など。

**1403. Quien espera, desespera.**

待ち続ける者は 絶望する

- 願っているものを手に入れたいという漠然とした期待で生きると、その人生は終わりのない苦しみとなる。(スバルビ諺辞典) 待つことと、疑うことは、気の休まらない耐え難い精神状態を生みだす。(バロス)
- スバルビ諺辞典には、異表現の“El que espera, desespera. 期待すると、失望する”が、収載されている。“esperar”には、“願う、期待する”とともに、“待つ”という意味があるが、バロスのコメントは“待ち続ける者は、絶望する”という訳にぴったりである。スバルビ諺辞典には、類義で“La esperanza es fruta de necios. 期待するということは、愚か者の産物である”(理にかなわないことを期待していれば、真実をついた諺であるが、(スコラ哲学の)対神徳として考えればそういう意味にはならない—スバルビ)、また、反意のことわざも次ぎのように同辞典に見られる、“Quien no espera, no alcanza. 待っていないと、手に入れられない(待てば海路の日和あり)”(希望することを成就するためには、我慢することが必要である—スバルビ)、“Nada se pierde con esperanza. 待っていれば、何も無駄にならない”

など。

- 標題の諺は、何かを漠然とした期待で待っていれば、月日は、耐え難いほど長く、辛く感じられ、時には絶望感に襲われるという意である。すでに旧約聖書では、“Esperanza frustrada, corazón afligido, pero el deseo cumplido es como un árbol de vida. 待ち続けるだけでは心が病む。かなえられた望みは命の木”（箴言、13-12-13）と、待ち続ける辛さが述べられている。同様に、根拠のない望みを抱いたり、漠然とした夢をみることの愚かさについては次ぎのように詩的な表現で綴られている；“Los tontos viven de falsas esperanzas; los sueños dan alas a los insensatos. 良識のない者はむなしく根拠のない望みを抱く。夢は愚かな者たちを空想へと駆り立てる。Creer en los sueños es querer agarrar una sombra o perseguir el viento. 夢を得ようとする者は、影を捕まえようとしたり、風をおいかける者と同じだ。Lo que uno ve en sueños es sólo una imagen, como un rostro reflejado en un espejo. 夢の中で見るものは映像にすぎず、鏡に映った自分の顔のようなもの。”（シラ書、34-1-4）
- こちらには、類義で“捧ほど願って針ほど叶う”（大きな願いを持っていても、叶えられるのはわずかである。世の中は願い通りにはいかないものである— 一故事ことわざ活用辞典），“富士の山ほど願って蟻塚ほど叶う”などの諺がたとえているように、現実には厳しく人が望んでいるようにはならないことがしばしばある。しかし、他方では、楽観的な“待てば海路の日和あり”，“果報は寝て待て”，“雨の後は上天気”などのことわざがあり、われわれにあせらずにじっくりと待っていれば、いつかは幸運が訪れてくると励ましてくれる。

#### 1404. Quien fue a Sevilla perdió su silla.

セビーリャに行ったら 席がなくなっていた

- 自分から望んで地位、或は、職務を離れて帰ってきたら、すでに誰かがそれに就いていたということ。（パロス）どんな理由であれ、一度ポストから離れたら、すぐに取って替わられるということは、昔も今も変わらないらしい。世の中はそんなに甘くないし、どんな人材でも替わりがきくということ。（筆者）
- コバルビアス（宝典）によると、“留守をしている間には、いろいろ新しい出来事が起こるものである”長い間の不在は、仕事だけではなく、その他のものをも失う。例



えば、愛とか友情、交友など。次ぎのことわざがそれをおしえてくれる；“Ausencia, enemiga de amor, tan lejos de ojos cuan lejos de corazón. 不在は愛の敵，目が遠くにあれば，心も遠くにある”（筆者の諺辞典，諺 114 を参照），“La ausencia causa olvido. 不在は忘却を招く”（同諺 114 を参照）など。

- 類義で日本のことわざでも次ぎのように言う；“去る者は日々に疎し”，“遠ざかるは縁の切れ目”，“月日かわれば気もかわる”など。

#### 1405. Quien hace lo que puede, hace lo que debe.

できることをしている者は 務めを果たしている

- 出来ることをしている者には，もっとせよと要求すべきではない。ちゃんと義務を果たしているのだから。
- 同義の諺には“Quien hace lo que puede no está obligado a más. できることをしている者には，もっとを要求すべきではない”，“Culpa no tiene quien hace lo que debe. しなければならぬことをしている者には，罪はない”（筆者の諺辞典，諺 366 を参照）が，また，コレアス諺集には，異表現で“Quien hace lo que puede más no debe; no debe más. できることをしている者は，それ以上の義務はない”が収載されている。それ以上要求すべきでない理由は，次ぎの諺が説明してくれる；“El asno sufre la carga, mas no la sobrecarga. ロバは荷は我慢するが，積みすぎは我慢せぬ”（義務は，できる限度を越えると，人をへとへとに疲れさせる—筆者の諺辞典，諺 99 を参照），“No mata la carga, sino la sobrecarga. 荷は殺さぬが，積みすぎは殺す”（同諺 99 を参照）など。反対に“Quien hace lo que quiere, no hace lo que debe. したいことをしている者は，しなければならぬことをしていない”（振る舞いがあまりにも気まぐれで，自己中心な者は，たいていの場合，公正な行いから外れている—スバルビィ諺辞典）という諺がある。“Quien hace lo que puede—できることをしている者”と“Quien hace lo que quiere—したいことをしている者”の違いが，ここでは明白に表わされている。

#### 1406. Quien hace los mandados que coma los bocados.

用事をしたなら 食べてもいいよ

- 働いた者が報酬をもらうべきである。（バロス）

- スバルビィ諺辞典には、異表現で“Quien hace los mandados se coma los bocados. 用事をしたなら、食べてもいいよ”（働いた者に、報酬を払うべきである—スバルビィ）がある。
- 仕事をした者を正しく評価すべきであるということ、また、食べるためには（報酬をもらうためには）、働かなければならないという勤労の尊さをいったもので、まさに、“一日作さざれば一日食らわず”、“働かざるもの食うべからず”の精神を謳ったものである。

**1407. Quien hace un cesto hace ciento, si tiene mimbres y tiempo.**

泥棒は一度やったら やめられない

- 諺の直訳は“かごを一個作る者は、百個作れる、もし材料と時間さえあれば”。パロスによると、一回悪い行いを犯した者は、同じような悪の行為を繰り返す傾向がある。また、同じ行動を飽きることなく何度も繰り返すことができる者をもいう。
- コレアス諺集には、異表現で“Quien hace un cesto hará ciento, si tiene mimbres y tiempo. かごを一個作る者は、百個作るだろう、材料と時間さえあれば”が、収載されている。“mimbres—（かごの材料となる）ヤナギの小枝”
- 標題のことわざを広い意味ととらえれば、“乞食を三日すればやめられぬ”、“乞食を三日すれば三年忘れぬ”などの諺の意味と同様に、“よくない習慣は一度身につくと正すのが難しく、なかなか抜けられない”。泥棒や乞食以外のアルコール中毒者や麻薬中毒者など、いろいろな悪い行為が世間にはいっぱいあるが、それらを一度経験したら、その世界から抜けだすのは至難の技であるとたとえている両国のことわざである。

**1408. Quien ha de pasar la barca no cuenta jornada.**

舟で渡りきるまで 仕事は終わらぬ

- まだこれからのり越えなければならぬ危険とか支障が残っているような場合には、満足して休息に身を委ねるべきではない。（パロス）克服すべき障害物がある間は、勤務時間を延長しなければならない。（スバルビィ）
- 渡し舟など川の水をかいて舟を進ませる者は、途中の川にはどんな障害物が隠れているか分からないから、無事に向こう岸に着くまでは、気をゆるめることができないように、どんな事柄であれ、予測のつかない障害物を乗り越えるまでは気をゆるめては

ならないという戒め。

**1409. Quien hijo cría, oro cría.**

子供を育てる者は 金の卵を育てている

- コレアス（諺集）によると；“子どもの親は乳母を雇って，子に乳を与える。その子どもに家督を譲りたいとか，何らかの利益を考えている親にとって，子は金なのである。次ぎのような言い替えもある；<Quien lino cría, oro cría. 亜麻を育てる者は，金（きん）を育てている>また，<子ども>は，<乳牛，馬，家畜>などの子どもと考えれば，一層諺の意味がよく分かる。”
- 標題のことわざには，ふた通りの解釈があると考えられる。日本のことわざを例にとってみると；“娘三人は一身代”，（養蚕や製糸に女手を必要とした土地のことわざで，娘が三人あれば，手が多くなるから一財産つくることができるということ—故事ことわざ活用辞典），“娘三人持てば左団扇”などの諺が言っているように，子どもがいれば，親は経済的に楽ができるということであり，他方では，“千の倉より子は宝”（子供は何物にもかえ難い最高の宝である—故事ことわざ活用辞典），“金宝より子宝”，“子に勝る宝なし”，“子宝千両”などの一連のことわざが言うように，子どもはどんなにたくさんの財産よりもずっと大切であるということである。

**1410. Quien hurta al ladrón tiene cien años de perdón.**

泥棒から盗む者は 百年間許される

- 悪人に害を与える者の言い訳に使われる。（パロス）広い意味では，人に悪事を働けば，人から同じようにされても当然であることのとえ。（筆者）
- 次ぎの異表現“Quien hurta al ladrón, cien días gana de perdón. 泥棒から盗めば，百年間許される”が，コレアス諺集に，また“El que roba al ladrón tiene cien años de perdón. 泥棒から盗めば，百年間許される”（盗まれたものであると知っているものを盗んだ者が，自分の罪を正当化するためにこの諺を口に出す—スバルビィ）が，スバルビィ諺辞典に，最後に“El que roba a un ladrón tiene cien años de perdón. 泥棒から盗む者は，百年間許される”（他の人々に盗みを働いたり，だましたりしている者は，いつか同じような目にあわせられても当然である—マリア・モリネール）が，スペイン語辞典にそれぞれ収載されている。

- 同義のことわざには、“Donde las dan las toman. 人を謀れば、人に謀らる”（人に酷いことをすれば、自分も同じようにされても文句は言えない、筆者の諺辞典、諺442を参照），“El que engaña, engañado se halla. 欺く者は、欺まかれる”（同諺辞典、諺474を参照），“Es justa razón engañar al engañador. かつぐ者をかつぐのは、当然だ”（同諺辞典、諺585を参照）などがある。
- 旧約聖書には次ぎのように、諺の趣旨が書かれている；“Al que tira al cielo una piedra, le cae en la cabeza. 上に向かって石を投げれば頭の上に落ちてくる。……El que hace un hoyo caerá en él y el que prepara una trampa quedará preso en ella. 落とし穴を掘る者は自分がそこに落ち込み、罠を仕掛ける者は自らそれにはまり込む。Al que hace el mal, éste le caerá encima, 悪事を働けばその報いがわが身に返って来る”（シラ書、27-25-27）
- 日本の同義のことわざには、“悪事身に返る”、“天に唾す”、“自業自得”などがある。

#### 1411. Quien huye del trabajo, huye del descanso.

仕事から逃げれば 休息も取れない

- 生活に困れば、落ち着いて生きることができないから。（パロス）
- コレアス諺集には、標題の諺とともに、類義の“Quien huye, más corre; o más corre quien huye. 逃げる者は、もっと走る”が収載されている。仕事から、義務から、生きるためにしなければならぬ事などから逃げまわっている者は、やがては困窮に陥ることになる。そうすると、のんびり休んでなどいられなくなり、必要なものを求めてあちこち駆けずり回らなければならないであろう。休みを取るためには、まずしっかりと働かなければならないということ。
- 標題のことわざをぴったりに言い当てているのに“怠け者の節句働き”がある。節句は休日で、その日は、みんなが休んでいる。そういう時に限ってわざわざ、ふだん怠けている者が働くという意味で、“故事ことわざ活用辞典”によると、人が働いているときに怠けているからそんな目にあうのだ、というあざけりの言葉であり、また、怠け者がわざと忙しそうに働く姿をからかって言うそうである。異表現には“横着者の節句働き”、“野良の節句働き”、“怠け者の宵働き”などがある。いずれにしても、ふだん人が働いている時には怠けて、人が休んでいる時に働いている怠け者をからかって言うことわざである。

**1412. Quien madruga Dios le ayuda.**

早起きする者を 神は助ける

- もっと働けば、もっと儲けることができると、怠け者に忠告している。(パロス)
- 異表現には“Al que madruga, Dios le ayuda. 同訳”があり、同義には“El que primero se levanta, primero se calza. いちばん早く起きた者が、いちばん早く靴を履く”(最も熱心な者が、求めるものを手にすることができる、筆者の諺辞典、諺499を参照)、“El que se levanta tarde, ni oye misa ni come carne. 朝寝坊はミサも聞かず、肉も食わず”(同諺499を参照)、“El que no madruga con el sol, no goza del día. 朝日とともに起き出ぬ者は、その日の恵みを受けられぬ”(同諺499を参照)などがある。しかし、次のように反義のことわざもある、“No por mucho madrugar amanece más temprano. いくら早く起きても、早く夜は明けぬ”(前もって用事のかたづけてしまおうといくら早くしても、いつも望んでいるような結果が得られるとは限らない—スバルビィ)
- 勤勉であることを奨励していることわざで、“早起きは三文の得”、“朝寝昼寝は貧乏のもと”とまさに同義である。旧約聖書でも次のように、勤勉を称え、怠慢を戒めている；“Poco trabajo, pobreza; mucho trabajo, riqueza. 怠惰な人の手は貧しさを、勤勉な人の手は富をもたらす。”(箴言10-4-5)、“El cazador perezoso no alcanza presa, pero el diligente alcanza grandes riquezas. 怠惰な者は獲物を追うこともしない。勤勉な人は莫大な富を得る”(箴言12-27-28)

**1413. Quien mal adquiere, mal tiene.**

悪銭身に付かず

- 不正な手段で得た金は、平静な気持ちで使うことができない。(パロス)
- コレアス諺集には、類義の諺が次のように見られる；“Quien mal adquiere para bien gastar, no es de loar ni envidiar. 悪銭を良いことに使っても、賞賛にも、羨望にも値しない”
- 標題のことわざは、正直に働いて得た金ではないので、ありがた味がなくつまらないことに使ってしまうのでやがてはなくなってしまうという意。真面目にこつこつ働いて得た正当な金をこちらでは、“正直の儲けは身に付く”という。標題のことわざと

表裏一体のことわざである。

- すでに旧約聖書の中でも、同じような趣旨が述べられている；“La riqueza mal habida es como torrente que se seca o como arroyo que se hincha entre relámpagos y truenos; cuando crece, hace rodar las rocas, pero en un momento se acaba por completo. 不正な者が得た富は、溪流のように干上がり、雨の中でとどろく雷鳴のように消えていく。”（シラ書40-13-14）

#### 1414. Quien mala mujer cobra, siervo se torna.

悪妻を娶ると 夫は召使いになりはてる

- 本当のところ、男にとって、不運の中でも一番の不運は悪妻を娶ることである。だから“El que en el casar acierta, en nada yerra. いい結婚を当てる者は、どんな間違いもしない”という諺は真実を突いているのである。（バロス）何故なら、妻の行動を常に見張っていなくてはならないからか、或は、妻が夫の世話や、家事をしないので、夫が自分のことから家のことまでしなくてはならないのでそうになってしまうのか。（スバルビィ）
- 反対に、男は良妻を娶れば；“A quien su mujer le ayuda, camino va de fortuna. 良妻持ちは、幸運の道いく”（筆者の諺辞典、諺90を参照），“La mujer buena, de la casa vacía la hace llena. 良妻は、空っぽの家をいっぱいにしてくれる”（同諺辞典、諺994を参照）また、結婚については，“Boda y mortaja, del cielo baja. 結婚と葬式は、天の配慮”（同諺辞典、諺148を参照），“Busca arrepentimiento el que busca casamiento. 結婚を探す者は、後悔を見つける”（同諺辞典、諺177を参照），“Quien mal casa siempre llora. 結婚がうまくいかない者は、いつも泣いている”，“Quien mal casa tarde enviuda. 結婚がうまくいかない者は、遅くなってつれあいを亡くす”（未亡人に、或はやもめになるのが遅いと互いに感じる）、などの諺がある。亭主にとっての悪妻とは，“Humo y gotera y la mujer parlara, echan al hombre de su casa fuera. 煙と雨もりと怒鳴る女房が、亭主を家から追いだす”（同諺辞典、諺700を参照）である。しかし、そういう妻なら、夫もまた、似たりよったりである，“Muéstrame a tu mujer y decirte he qué marido tien. 妻を見ればどんな夫かわかる”（同諺辞典、諺989を参照）
- 旧約聖書には、悪妻と一緒に家にいたくない亭主を比喻を用いてこう表現している；

“Más vale vivir en el borde de la azotea, que en una amplia mansión con una mujer pendenciera. いさかい好きな妻と一緒に家にいるよりは、屋根の片隅に座っている方がよい” (箴言 21-9-10) “Vale más vivir en el desierto que con una mujer irritable y pendenciera. いさかい好きで怒りっぽい妻といるよりは、荒れ野に座っている方がよい” (箴言 21-19-20) また、シラ書 25 の悪妻については；  
 “Prefiero vivir con un león o un dragón, que vivir con una mujer malvada. 獅子や竜と住む方が、悪妻と暮らすよりはましである。” (16-17) “Como cuesta arenosa para los pies de un viejo es la mujer charlatana para un hombre tranquilo. 物静かな夫が口やかましい妻と暮らすのは、まるで老人がその足で砂丘を登るようなものだ。” (21-21) “Manos débiles, rodillas temblorosas; así es el hombre a quien su mujer no hace feliz. 夫を不幸にする妻を持つと、手は萎え、ひざが弱る” (23-24) 同様に、シラ書 26 では、良妻については；“¡Dichoso el esposo de una mujer buena; vivirá el doble! 良い妻をもった夫は幸福である。彼の寿命は二倍になるだろう。Una mujer ejemplar hace prosperar a su marido y le alegra los años de su vida. しっかり者の妻は夫を喜ばさせ、彼は平穩無事に生涯を送る。¡Qué buena suerte es encontrar una buena mujer! Es un regalo que Dios da a quienes lo respetan. 良い妻はすばらしい賜物。主を畏れ敬う者に与えられる賜物である” (1-4)

- こうして見てくると、諺辞典でも旧約聖書でも悪妻及び良妻については長々と述べられているが、悪い夫、良い夫にはあまり触れていない。両方とも書き手が男であると分かってしまう。上に述べられていることでは、妻のかわりに夫と置きかえると女に対しても同感が得られるであろう。

**1415. Quien mal anda, mal acada.**

歩き方が悪ければ とまり方も悪い

- 放蕩でだらめな生活を送ってれば、惨めな終わり方をするということ。(パロス) 正直でない生き方をすれば、人間世界の司法の手によってか、或は、神の手によってか、どちらにしても良い死にはできない。(スバルビィ諺辞典)
- 類義のことわざには、“Quien mala cama hace, en ella se yace. ベッドの作り方が悪い者は、そこに眠る” (yacer—死ぬために横たわる), “Quien mal cae, mal yace.

転び方が悪いと、落ち方も悪い”（悪習慣や放蕩にひきずられた生活を送っていると、落ち着いた穏やかな生活を営むことができない—バロス），“Quien en malos pasos anda, malos polvos levanta. 一步一步の歩き方が下手な者は、ほこりを舞い上げる”などがある。同様に、同義には“Quien mal vive en esta vida, de bien morir se despida. この世で不正に生きる者は、良い死に方をあきらめよ”，“Como se vive se muere. 人は、生きたように死ぬ”（人はそれぞれの生き方にふさわしい死に方をする、筆者の諺辞典、諺 264 を参照），“Quien malos caminos anda, malos abrojos halla. 悪い道を行けば、ごろごろ岩に出くわす”などの諺がある。

- 旧約聖書でも次ぎのように教えている；“No hay que pasarse de malo, ni tampoco pasarse de tonto. ¿Para qué morir antes de tiempo? 悪事をみすごすな、愚かすぎるな、どうして時も来ないのに死んでよかろう。”（コヘレトの言葉 7-17-18）  
“No busquen la muerte con una vida extraviada, ni, por sus acciones, atraigan sobre ustedes la perdición. 道を外して死を招くな。自分たちの手の業で滅びを引き寄せるな。”（知恵の書 1-12-13）“Los malos llaman a la muerte con gestos y gritos; pensando que es su amiga, la buscan con afán. 神を信じない者は言葉と行いで自らに死を招き、死を仲間とみなして身を滅ぼす”（知恵の書 1-16）“...pero sólo al final se ve lo que cada uno es. No llores feliz a nadie antes de su muerte. 人の行いの評価は、その最後に明らかになる。どんな人に対しても死を迎えるまでは、その人のことを幸せだと言うな。”（シラ書 11-27-28）など。
- 生きている間に犯した悪事の報いは、最後になって自分自身が受け止めなければならぬということ、 “因果応報” とか “自作自受”， “爾に出ずるものは爾に返る” などと同義である。

**1416. Quien malas mañas tiene en cuna, tarde las pierde o nunca.**

揺りかごの悪い癖は ほとんど 或いは 決して 治らぬ

- 幼い頃に学んだことは、精神の奥深くに残るので、生涯それを取り除けることはできない。（バロス）
- コバルビアスの“宝典”には、次ぎの異表現 “Quien malas mañas ha, tarde o nunca las perderá. 揺りかごの悪い癖は、ほとんど、或いは、決して治らぬ”が、バロス諺集には、“El que malas mañas ha, tarde o nunca las perderá. 持った病



いは、治らぬ” (筆者の諺辞典, 諺 484 を参照) が、それぞれ収載されている。

- 類義のことわざには “La costumbre es otra naturaleza. 習慣は、第二の天性なり” (筆者の諺辞典, 諺 312 を参照), “Costumbre buena o costumbre mala, el villano quiere que vala. よくても悪くても村人は習慣を後生大事にする” (同諺 312 を参照), “La costumbre hace ley, o tiene fuerza de ley. 習慣は法となる, 法の強さを持つ” (同諺 312 を参照。パロスによると, 同じ行動のくり返しは, やがてそれを行う人の都合のよい権利にまでなる), “Dejar lo usado es cosa fuerte, que mudar costumbre a par de muerte. 習慣を変えるのは, 死と同じくらい辛いもの” (同諺辞典, 諺 389 を参照) などがある。
- “Maña” とは “vicio, mala costumbre—悪癖, 悪習”
- 日本のことわざには, 同義で多数ある。よく聞けるのが “三つ子の魂百まで” であろう, 標題のことわざと表現が類似しているのが “産屋の癖は八十まで治らぬ” であろう。

#### 1417. Quien mal canta, bien le suena.

下手な歌をうたっても 上手に響く

- 一般に, 人というものは, 自分の欠点が見えないから。(パロス) たとえ, どんなに下手でも, 自分がすることは, 最良だと考える人間の自負心を誇張した諺である。(スバルビィ)
- 他人の欠点なら, どんなに小さくてもすぐ気になり, 不快になるが, 自分のそれには気がつかない, それがどんなに大きくても。新約聖書では, すでにイエスが, こう述べられている: “¿Por qué te pones a mirar la paja que tiene tu hermano en el ojo, y no te fijas en el tronco que tú tienes en el tuyo.? あなたは, 兄弟の目におが屑が見えるのに, なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか” (マタイ福音書 7 - 3 - 4, 人を裁くな)
- この御言葉から, 格言として言い表わされているのをすでに, 筆者の諺辞典で見えた; “En el ojo de su vecina ve una paja y en el suyo no ve una tranca. 隣人の目に, おが屑が見えるのに, 自分の目の中の丸太に気づかない” (諺 542 を参照), 異表現では, “Ver la paja en el ojo ajeno y no ver la viga en el nuestro. 同訳” (諺 542 を参照), “La paja vemos en el ojo ajeno y no la viga en el nuestro. 隣人の目に, おが屑が見えるのに, 自分の目の中の丸太に気づかない” (諺 1243 を参

照) など。

- 同義の日本の諺には“人の七難我が十難”，“人の七難より我が八難”，“人の背中は見えるが我が背中は見えぬ”などがある。いずれも他人の欠点は、少しでも目につくのに自分の欠点はそれ以上あってもなかなか気づかないものであるということ。これらの“難”は，“災難”ではなく“難点”という意味。表現が似ていて紛らわしいのが“人の十難より我が一難”（他人の大きな苦しみは気にならないが、自分のことだと、些細な苦しみでも大いに気になる）で、この場合の“難”は，“災難”の意。

**1418. Quien malo tiene el rabo, no puede estar sentado.**

しっぽが傷ついていると お坐りできない

- 心配事があると、落ち着いていられない。バロスによると、“El que se pica, ajos come. 体がむずむずするのは、にんにくを食べたから”（にんにくを食べたので、体がむずむずとかゆいように、噂が気になるのは、身に覚えがあるから。一筆者の諺辞典、諺 503 を参照）と類義のことわざ。
- 標題のことわざは、何か不安を覚えるような気がかりでいっぱい、居ても立ってもいられないような心の状態を謳っている。類義の日本のことわざには“心の鬼が身を責める”（やましい事をして、良心に責められて苦しむことのたとえ—故事ことわざ活用辞典）がある。

**1419. Quien mal te quiera te hará reír; quien bien te quiera te hará llorar.**

憎き子は笑わせよ 愛しき子は泣かせよ

- 正しい道を行くより間違った道を行くのは、容易く快いものである。（バロス）
- 異表現には“Ese te quiere bien, que te hace llorar. 愛しき子には、杖で教えよ”（本当に愛しくおもう者には、間違いを犯しそうになったら厳しく教え、諭せということ、筆者の諺辞典、諺 583 を参照）
- 日本の同義のことわざには“可愛い子には旅をさせよ”，“可愛い子には灸を据えよ”，“獅子の子落とし”，“獅子の子育て”などがある。いずれも自分の子が、立派な人間になるように厳しく、甘やかさずに育てることをたとえている。

**1420. Quien manda, no ruega.**

命令する者は 頼むな

- 命令することが務めである者は、その責務を果たすべきである。(パロス)
- 人には、それぞれの居場所があり、果たさなければならぬ義務がある。お互いにその領域を犯すと混乱が生じて物事がうまく運ばなくなるので、命令する者は、命令を、それを受ける者は、命令通りに動けということ。
- しかし、戦場ではそれぞれの状況に応じた臨機の策が必要であって、たとえ君命に背くことがあってもやむを得ないという孫子のおしえ“君命も受けざる所あり”がある。

**1421. Quien más sabe, mayores dudas tiene.**

知れば知るほど 分からなくなる

- 何故なら、知識が深くなればなるほど、もっと知りたくなるし、基本的な真実を探求すればするほど、疑問もいよいよ大きくなるから。(パロス)
- 知識が深まれば、疑問も大きくなる、疑問が大きくなれば、知りたいという希望も大きくなる。そしてやがては、大きな悟りも開けてくるであろう。それを教えてくれるのが“大疑は大悟の基”という格言であろう。また、論語では“学びて思わざれば則ちくらし”がある。学問をしても、ただ覚えるだけでは役に立たず、自分から疑問を持ち思索し、探求しなければ意味がないという意で、標題のことわざは、学問をしていく上で、大切なことを述べていることが分かる。ただ、知識を鵜呑みにしても駄目なのである。

**1422. Quien más teme, más puede.**

怖れている者ほど たくさんできる

- 用心深い者は、克服することができるから。(コレアス諺集)
- 何かを怖れて準備を十分に整えれば、冷静に物事に対処できる。何も怖れずに無鉄砲にふるまう者は、命さえ落としかねないだろう。こちらにも類義のことわざがある；“浅い川も深く渡れ”、“網無くて淵を覗くな”、“石橋を叩いて渡る”など、起こるかもしれない災難を避けるためには、念をいれた注意が必要であるとたとえていう。

**1423. Quien más vive, más sabe.**

長生きしている者は よく知っている

- 年長者の長年の経験による意見、忠告は間違いがないので尊重しなければならない。
- 同義には“Más sabe el diablo por viejo que por diablo. 悪魔は、老いているからこそ知恵がある”（年寄りの知恵をたたえている、筆者の諺辞典、諺 854 を参照）がある。
- 旧約聖書のシラ書でも同じことが述べられている；“¡Qué bien queda a las canas el juzgar, y a los ancianos el dar buenos consejos! 健全な判断は年輪を重ねた者に、確かな勧告は長老にふさわしい。¡Qué bien queda a los ancianos el ser sabios y a los respetables dar consejos acertados! 知恵は年を経た者たちに、理解力と忠告は尊敬すべき年寄りにふさわしい。La experiencia es la corona de los viejos, ...豊富な経験こそ老人の冠であり、..”（25- 4- 7）
- 同義の日本の諺は、次のように多数ある；“年寄りの言う事と牛の鞭は外れない”（牛馬の尻にかけて車を固定させるひもが外れないように、年寄りの意見は、的を射ていて間違いがない—（故事ことわざ活用辞典），“年寄りの言う事は聞くもの”，“年寄りの言った事は土に落ちない”，“亀の甲より年の劫”など。

**1424. Quien me da el pan, me da el afán.**

パンを与える者は 苦しみも与える

- 報酬を受け取れば、同時に義務も負うことになる。（パロス）
- 人は、食べて生きるためには、働かねばならない。どんな仕事にも労苦がつきものであるということ。
- つらい労苦は、母の胎を出た日から、母なる大地のもとへ戻る日まで、人間だれしも避けられないと旧約聖書では言う；“El hombre trabaja y trabaja para comer, pero nunca queda satisfecho. 人の労苦はすべて食べるためだが、それでも食欲は満たされない。（コヘレトの言葉 6- 7- 8）” “El pobre se afana por las necesidades de su caza, y cuando descansa todo le hace falta. 貧しい者は労苦しても、生きるのが精一杯で、手を休めるとたちまち生活に困る。”（シラ書 31- 4- 5）注：“afanarse por—...のために労苦する，精を出す，懸命になる” “afán—

労苦, 苦しみ, 骨折り ect.”

- パンを稼ぐために人に仕える仕事につくのは、苦労が絶えず大変であるということ。日本でも昔からこう言われていた“すまじきものは宮仕え”とか、“さすまいものは宮仕え”など。異表現の“せまじきものは奉公”, “致すまいものは宮仕え”などが“岩波ことわざ辞典”に見られる。本来の意味は、宮中に仕えるのはいろいろ気苦労が多いので、できるだけしないほうがよいということ。標題のスペインのことわざもまさしく、他人につかわれる苦労, 悲哀を謳っている。

**1425. Quien menos la procura, a veces ha más ventura.**

努めない人ほど 時には 幸運を手に入れる

- 何か欲するものを手に入れようとしてただがむしゅらに追い求めることの弊害を説いている。何事にも余裕をもって当たれということ。
- 次のような異表現が、まずコレアス諺集に“Quien menos la procura alcanza a veces más buena ventura. 努めない人ほど、時には幸運を手に入れる”, “Quien menos la procura, a veces ha más ventura. あまりやっきにならない人が、時には幸運をよびこむ”, つぎに、スバルビィ諺辞典に“Quien menos procura, alcanza más bien. 努めない人ほど得をする”(欲することをあまりにも熱心に求める弊害を言う。場合によっては、あまりやっきにならないほうが、かえって望んでいるものを的確に手に入れることができるから—スバルビィ)などが、収載されている。
- 類義のことわざには、“Quien más pone, más pierde. 一生懸命になればなるほど損をする”(人生におけるもろもろな事は不確実であるし、また、人というものは不完全なので、あまりの熱意で事に当たるとかえって悲嘆と幻滅を味わう羽目になる。この諺は、あまりにも誠実で気前のいい人に注意を促している—バロス)がある、また反義の諺には“Quien más mete en la barca, más saca. 舟にいっぱい入れる者が、たくさん取りだす”がある。
- 例題：セレスティーナ第6幕、惚れているメリベアを手に入れようとやっきになっているカリストに女衞のセレスティーナがこう言う、“Refrán viejo es: <quien menos procura, alcanza más bien>. Pero yo te haré procurando conseguir lo que siendo negligente no habrías. 古い諺にこんなのがございますよ。<努めない人ほど得をする>。だが、殿さまが投げやりな態度をとられたのではお手に入らぬものを、

手に入るようにしてさしあげましょう。”(魔女セレスティナ, 大島正訳)

### REFERENCIAS BIBLIOGRÁFICAS

